

平成28年度 学校目標設定報告

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	「自立と社会参加」をめざし、小中高一貫した「学びの連続性」のある教育課程の編成と「わかる授業」実践を推進する。	「こころとからだ」分野の教育内容を見直すことを通して、「学びの連続性」のある教育課程の編成を進める。	全校研究テーマ「保土ケ谷の学びの連続性～自立と社会参加に向けて育てたい力～」に基づいて、各学部が「こころとからだ」の校内研究に取り組み、各学部の研究成果を全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころとからだ」分野の校内研究は推進されたか。 ・個別教育計画作成ガイドラインの活動項目例に反映されたか。
2	児童・生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりの実態及び教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	個別教育計画の新書式を活用した協議を通して、担任間の共通理解を深め、児童・生徒一人ひとりに応じた組織的な指導・支援を行う。	平成28年2月の「個別教育計画作成ガイドライン」を活用して、新書式の個別教育計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別教育計画作成ガイドライン」を活用して新書式の個別教育計画を作成できたか。 ・個別教育計画作成の過程を通して、担任間の共通理解は深まったか。
3	進路指導 ・支援	小中高それぞれのライフステージに沿った進路指導・支援を適切に行う。	各学部の教員が卒業後の生活を意識した指導・支援を行う。	各学部の教員が、卒業後の進路先等の見学を通して、卒業後の生活を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、長期休業中の研修等を活用して進路見学ができたか。 ・卒業後の生活を意識した授業実践は行われたか。
4	地域等との 協働	誰もが生活しやすい地域作りを進める上で、地域との役割分担や協働について取り組みを進める。	各学部と地域との交流を通して、地域の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部と近隣の小・中・高等学校との交流を計画的に行う。 ・各学部の実態に応じて、地域貢献活動を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校交流を通して、両校の児童・生徒間の理解は深まったか。 ・地域貢献活動を通して、地域の理解は深まったか。
5	学校管理 学校運営	安心・安全な教育環境を整え、人権に配慮した教育活動を推進する。	現行の非常災害時等のマニュアルの内容を全職員がよく理解して、安心・安全な職員体制を構築する。	・非常災害等のマニュアル全体の内容の理解が深まるように、実際的な訓練を行う。	教員は、現行の非常災害時等のマニュアルを理解して、訓練及び実際の場面で適切に行動できたか。